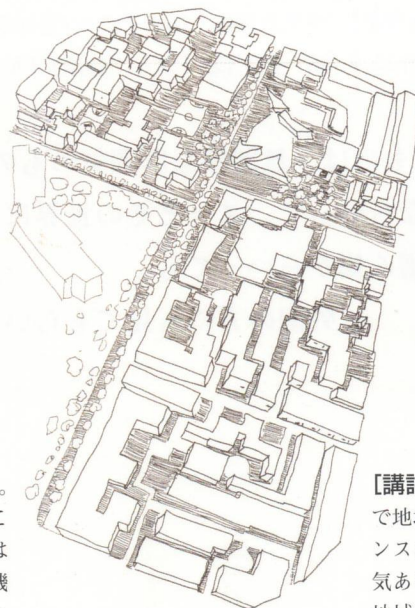
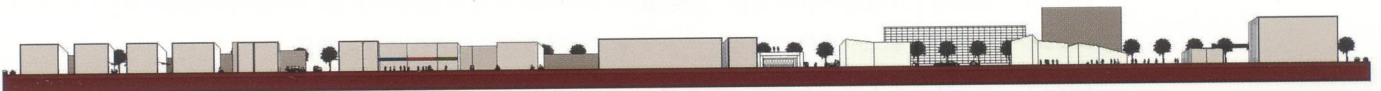
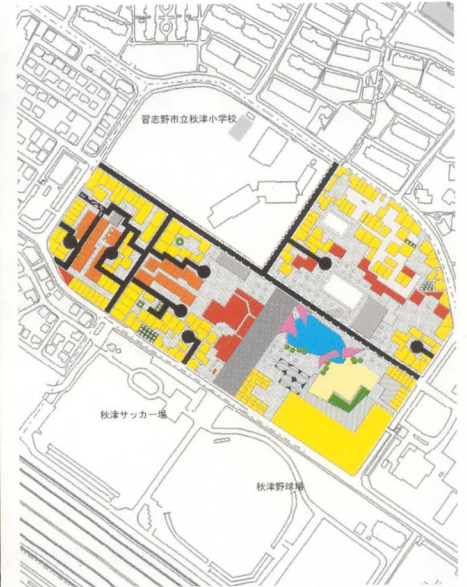




金子哲司 (かねことし)

東京電機大学 情報環境学部情報環境デザイン学科



多くの確立で存在するチェーン店、そして車社会。大型ショッピングセンターが距離を開けて点在。この3つは大きな問題である。まず徒歩で動くことはとても大変である。独自の文化が生まれにくい。機能が明確に分かれてしまうなどがあげられる。これらの問題を解決するためにこれから街の提案をする。無色のベッドタウンに色をつけやすい状態に、地域の人を作るような環境が出来る事により街は無限の可能性を見せるだろう。同じ色の街なんて1つもあってはいけないのだ。住人参加型の楽しい街の提案です。住む人が話し、共に時間を過ごし、少しずつ完成に近づけてもらえるような空間、時間の提供をします。

【講評】 現代の大都市近郊のベッドタウンは、均質的で地域性に乏しく、生産性よりも消費性の増大するバランスに欠く退屈な日常性の連続であると作者は捉え、活気ある快適な街づくりに苦悩する。職と住の程良い距離、地域の一体感、人々の出会いを育むことのできる都市環境のシステムは何か、構築と解体のくりかえしの作業の中から作者は、「偶然性」に着目した。断片的に描かれたイラストはデジタル的であり、それぞれの場の出来事に偶然に遭遇し参加する。退屈な日常から、活力ある日々が生まれ増幅されて行く。楽しい生き生きとした街づくりシステムの提案とした。概念から具象へと提案が発展することを今後の課題としたい。

【審査員：星野 治】